

<p>第一課 四月六日 「天(あめ)が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある」 伝道の書 三ノ一 口語訳</p>	<p>第二課 四月二三日 「もしあなたが主仕えることを、こころよしとしないならば、あなたがたの先祖が、川の向こうで仕えた神々でも、または、いまあなたがたの住む地のアモリびとの神々でも、あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」 ヨシユア 二四ノ一五 口語訳</p>	<p>第三課 四月二〇日 「義は主のみ前に行き、その足跡を道とするでしょう」 詩篇 八五ノ二三 口語訳</p>	<p>第四課 四月二七日 「また主なる神は言われた、『人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう』」 創世記 二ノ一八 口語訳</p>	<p>第五課 五月四日 「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる」 箴言 三ノ五、六 口語訳</p>	<p>第六課 五月一日 「わたしをあなたの心に置いて印のようにし、あなたの腕に置いて印のようにしてください。愛は死のように強く、ねたみは墓のように残酷だからです。そのきらめきは火のきらめき、最もはげしい炎です」 雅歌 八ノ六 口語訳</p>	<p>第七課 五月一八日 「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためです。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためです」 ヨハネ 一七ノ二一 口語訳</p>
<p>第八課 五月二五日 「見よ、子供たちは神から賜った嗣業であり、胎の実は報いの賜物である」 詩篇 一二七ノ三 口語訳</p>	<p>第九課 六月一日 「わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思つてを失つたが、それらのものを、ふん土のように思つている。それは、わたしがキリストを得るためであ(る)」 ピリピ 三ノ八 口語訳</p>	<p>第一〇課 六月八日 「怒ることがあつても、罪を犯してはならない。憤つたままで、日が暮れるようであつてはならない」 エペソ 四ノ二六 口語訳</p>	<p>第一一課 六月一五日 「こういうわけで、……わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれて喜ぶのゆえに、恥をもちとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至つたのである」 ヘブル 一二ノ一、二 口語訳</p>	<p>第一二課 六月二二日 「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによつて、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さつたかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」 「ペテロ 二ノ九 口語訳</p>	<p>第一三課 六月二九日 「見よ、主の大きいなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもつてこの国を撃つことのないようにするためである」 マラキ 四ノ五、六 口語訳</p>	